

岐阜県立岐阜工業高等学校

学 校 長 長屋 千秋

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町 1700 電話 058-387-4141

1 会議の名称 岐阜県立岐阜工業高等学校 学校評議員会（第2回）

2 会議の構成 委 員 木村 眞弓 地域住民代表
小島 健児 育友会会長
近藤 隆志 名古屋鉄道株式会社笠松駅長
杉山 広子 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学 校 側 長屋 千秋 校長
若松 卓郎 副校長
川合 宏海 事務部長
下川 治 教頭(全)
藤田 正昭 教頭(全)
森 保 教務主任
上田 雅利 特別活動部長
加藤 嘉彦 工業教育部長

3 会議の目的 学校運営等について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会議の開催 平成 25 年 11 月 15 日(金) 10:00～12:50 岐阜工業高等学校 校長室、他
委員4人と学校側8人が出席

5 会議の概要

<校長室>

(1) 開式

- ・ 学校長挨拶
- ・ 日程説明
- ・ 「文化祭の取組みについて」概要説明

<各会場・ピロティ>

(2) 文化祭見学・昼食

<校長室>

(3) 協議

- ① 文化祭を見学して
- ② 『生徒及び保護者等を対象とするアンケート』の結果報告（全日制）
- ③ 『生徒及び保護者等を対象とするアンケート』の結果報告（定時制）
- ④ 岐阜工業高校に期待すること
学校に対する要望・ご意見等

① 文化祭を見学して



意見 1 生徒も一生懸命説明してくれて、良い印象だった。様々な体験的催しも面白いものだった。

意見 2 岐阜工業高生の技術のすごさを見せつけられた。

意見 3 様々な高い技術レベルの展示がされていたが、科によっては展示が地味な気がした。ディスプレイや紹介の仕方をもっと工夫したり、全国に通用するすごい技術を持った生徒の存在をもっとアピールしたりするとよい。

見学をしていると、我々への生徒の声かけが微笑ましく雰囲気良かった。学校がうまく回っていると感じた。

意見 4 生徒の優秀さを感じた。

展示はやや地味な感じがしたが、展示の仕方を工夫してもらってもっとアピールするとよい。大変楽しい文化祭であった。

②③ 『生徒及び保護者等を対象とするアンケート』の結果報告（全日制）（定時制）

全日制（教務主任）、定時制（副校長）より、各々報告。

意見 1 親への連絡文を子供がなかなか届けないのは我が家も似たようなものである。先生の指導に対して満足している生徒が多いので、このままやっていただければよい。

警報が出た際の対応が変わったようだが、今はすべての警報に対しての対応となっているようで、やや混乱が発生する場合もあるのでは。

学校側 県よりの通達によりすべての警報に対して、生徒登校中に発令された場合は学校待機が原則となっている。状況に応じて親が責任を持って迎えに来てもらえれば帰すことができる。そういった事情を保護者の方に周知徹底していきたい。

意見 2 自分の子供の場合も年頃になると話すことが少なくなった。学校からのメール等の発信方法を工夫して、話題となりそうな内容を積極的に提供してもらいとよい。

意見 3 昔は定時制というと勤労学生というイメージがあったが実際はどうか。
学校側 アルバイトを入れても半数を少し超える程度である。いろいろな事情を抱えている生徒も少なからずいる。かつてのイメージとは随分違うと思う。生活が不規則になり、ゲーム等で昼夜逆転している生徒もいる。

意見 4 定時制にもパソコン等が詳しい生徒もそれなりにいると思うが、そういった生徒に働き掛けてサークル的な活動を運営させると、生徒も積極的に取り組むことも期待できるのではないか。

学校側 HP 作りに参加したりして、積極的に定時制の活動を発信してもらおうと学校全体も活力が出てくる。

全日制も定時制もニートとなるような若者を作らないような、きちんと若者を育てる仕組みを考えていく必要がある。卒業して働くようになって、頑張ればこうなれるというようなモデルケース、目標的なものを、如何に我々が環境整備してやるかということが大切なこととなる。

④ 岐阜工業高校に期待すること、学校に対する要望・ご意見等

意見 1 ボランティアや地域への貢献活動等、学校としての活動を多岐に渡ってやっている。どこの学校でもやれるということでもないので、活動をもっとアピールできたらと思う。

意見 2 ミニ SL の運行や活動を見させてもらったことがあるが、パネル等も工夫して岐阜工業高校を大きく発信してもらえるとよい。担当の先生は運行することで手一杯であると思うので、他科との協力体制を整えればもっとアピールできると思う。

学校側 本校がやっている貢献活動を、小中学校や幼稚園までどんどん出て行って教えようという取り組みを始めたところである。8の学科がありそれぞれいいも

のを持っているがバラバラでやっているの、これがコラボして共同してやっていけたらもっと力が出る。虹よりも一色多い「八科八色」を束ねれば、素晴らしい光を放つことができる。とくに本校にはデザイン科があるということが大きな強みとなり、周りにアピールしていく際の効果を大きく高めることができる。学科間の融合を図っていく仕掛けを、若手にどんどん考えさせている。

意見 3 そういった試みもどんどん記事になって発信されていくと、周りの人間も活動が分かりやすい。

学校側 来年の文化祭は公開の年であるので、より一層「八科八色」の力を集結して多くの方に集まってもらえる文化祭にしたい。

意見 4 缶バッジを今日初めていただいた。今まで「どこにあるの?」という感じで、案内に書いてあってもたどり着けなかった。発表場所を工夫して動線を考えた展示場所を工夫してもらえるとよい。

学校側 8学科がバラバラに展示していたのでは動線は悪くなる。ブースに分けて展示ゾーンや体験ゾーン等を割り振りその中に8学科が入っているというような工夫が必要となる。全体を見通した組織作りをすることが大切であると考えており、「八科八色」が共同してきちんと光るような文化祭を企画したい。

缶バッジも再来年の90周年に向けて、記念缶バッジのような取り組みをすると面白いものになると思う。また、世間ではゆるキャラブームであるが、本校にも“笠タン”というイメージキャラクターがあるという話である。こういった埋もれたキャラクターの活用等いろいろなアイデアを出し合って、90周年を盛り上げていきたい。

6 会議のまとめ

今回（第2回評議員会）は、始めに清笠祭（文化祭）を見ていただき、その後本校の教育活動の概要を説明し感想および提言をいただいた。

本校生徒の清笠祭に取り組む姿勢やその展示内容には高い評価をいただいたが、展示方法やそのPRの仕方には一考の余地があるというご指摘を受けた。

8学科が互いに得意分野を生かし、「八科八色」を総合的に展開できれば大きな魅力とすることができる。来年の公開文化祭や再来年の90周年に向けて、岐阜工業高の特色を生かした企画や展示、PR等を全校挙げて考えていきたい。